

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-1-1 地域防災力の向上	施策責任者	危機管理部長 木村 幸司
目指す姿	自助、共助、公助の役割が機能し、市民、地域、行政が一体となった災害に強いまちを目指します。		
関係課	危機管理消防課	個別計画	地域防災計画、国民保護計画、地震防災対策アクションプログラム

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	15.8	13/40位	35.9	7/40位	●令和4年度実施の市民意識調査において、「地域防災力の向上」の施策に対する重要度は下がり、満足度は若干の上昇となりました。この要因として考えられるのは、対象年度に本市で災害が無く、重要度が下がり、家具固定事業の申請件数が増えたことにより、満足度が上昇しているものと分析します。
R 3	19.5	7/40位	34.9	12/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	自主防災組織率（世帯割）	%	実績	86.8	87.5	88	88.1	88.2	100	県平均 R1：96.0% R2：96.2% R3：96.1% R4：97.1%
			達成率（%）	86.8	87.5	88.0	88.1	88.2		
②	自主防災組織の活動に参加している市民の割合	%	実績	15	17.6	9.9	9.4	9.6	50	
			達成率（%）	30.0	35.2	19.8	18.8	19.2		
③	家具固定を行っている市民の割合	%	実績	24.3	22.6	22	24.1	29.6	50	県民意識調査（3年毎公表翌年度）H25：43.8% H28：45.5% R1:53.0%
			達成率（%）	48.6	45.2	44.0	48.2	59.2		
④	水や食料などを備蓄している市民の割合	%	実績	41.7	43.6	46.2	46.8	52.4	70	
			達成率（%）	59.5	62.2	66.0	66.8	74.8		
⑤	災害協定締結件数	件	実績	35	38	41	43	48	50	岩出市 R1：54件 R2：60件 R3：62件 R4：66件
			達成率（%）	70.0	76.0	82.0	86.0	96.0		

4. 成果指標の分析（成果指標のNoと対応）

①新型コロナウイルス感染症の影響により自主防災組織の設立啓発等の活動ができませんでした。
②新型コロナウイルス感染症の影響により自主防災組織の訓練等の活動ができませんでした。
③家具固定の支援事業への申請件数の増加などから、防災意識の向上につながってきていると考えています。
④各地の災害報道により、備蓄の必要性に対する意識の向上がみられます。
⑤各地での甚大な災害の報道発表により、企業から協定の働きかけがあり、協定締結件数が順調に増えてきています。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●近年、国内の各所で大きな地震や局地的豪雨などの大きな自然災害が頻発しています。また、南海トラフ巨大地震による被害想定では、本市でも震度6強の地震発生が予想されています。
●各地で地震が頻発していることもあり、市民意識調査によると、「3日分程度以上の水や食糧を備蓄している」市民の割合が52.4%となっています。市民全体では防災意識の高まりがありますが、被災経験がある地域と被災経験がない地域によって防災意識における地域差があります。
●大規模災害が生じた場合に備え備蓄物資を蓄えておりますが、想定避難者数を考慮した備蓄物資を保管するための倉庫が不足しています。
●避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、市町村に個別避難計画の作成が努力義務化されました。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎自主防災組織の設立促進と活動活性化のための取組が必要です。
◎有事の際の指定避難所のスムーズな開設、運営につながる対策が必要です。
◎各家庭における食料等の備蓄や家具固定を促進する必要があります。
●職員の防災対応力の強化として、研修や訓練の実施が必要です。
◎災害対策本部機能（システム導入等含む）の充実と職員の防災対応力の強化（全庁的な協力体制の確立等）が必要です。
●大規模災害が発生した場合に全庁的な協力体制や機能維持の構築が課題です。
●策定した受援計画に基づき、実際の受け入れ体制や施設についての検討が必要です。
●障がい者や児童等の避難行動に支援を要する市民の避難方法や情報伝達について対策が必要です。
●備蓄食料や防災資機材の計画的な整備及び保管場所の確保が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	防災意識の啓発、普及	●家具固定の促進を図るため、平成29年度から家具転倒防止対策促進事業の実施と啓発を行い、令和2年度から同事業の申請を簡素化し、啓発方法を工夫したことにより、申請件数が目標件数に達しました。 ●小学生から防災意識をもってもらうため、小学生の高学年を対象に防災教室を平成28年度から実施し、令和4年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、備品物資や消防車両についての紹介や、テキストや備蓄物資等を配布し遠隔でも講義を行うため、Webにて実施しました。 ●自主防災組織設立を促進するため、自治会活動の場において、自主防災組織の必要性について啓発を強化する体制でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実地啓発はできませんでした。	低い	●家具固定の促進を更に進めるため、事業実績を検証するとともに、申請目標を令和5年度から上方修正します。 ●小学生から防災意識を持ってもらうため防災教室を継続実施します。 ●自主防災組織設立を継続して促進するため、自治会活動の場において、必要性について啓発を強化し、また研修の派遣要望には積極的に参加していきます。 ●令和3年度に更新・作成した紀の川市ハザードマップや防災ガイドを活用して、市内の危険箇所や市民の避難行動の円滑実施に向け、啓発を継続します。 ●避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を実施するため、個別避難計画を作成します。
	危機管理消防課			
②	防災施設などの計画的な整備	●防災行政無線のデジタル化事業完了後、防災行政無線放送の効果的な運用と他の情報ツールとの効率的な連携・活用を図るとともに、防災行政無線直しサービスのフリーダイヤル化や防災情報ライン連携など新たな伝達手段について調査研究を行いました。 ●震度感知式鍵ボックスの設置完了後、避難してきた市民が速やかに避難できる訓練を、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、いつでもどこでも学習することができる市民避難所開設Web学習訓練を実施しました。 ●避難してきた市民が安全で安心して過ごせるよう、引き続き、防災資機材や備蓄物資を整備して、避難所の機能強化を図りました。	普通	●継続して防災行政無線放送の効果的な運用と他の情報ツールとの効率的な連携・活用を図るとともに、新たな情報伝達手段についても運用・実施に努めます。 ●地震発生時に速やかに地域住民が避難所を開設・運営できるよう、震度感知式鍵ボックスや防災倉庫等の説明を行うとともに避難所開設・運営訓練を実施します。 ●引き続き、防災資機材や備蓄物資を整備して、避難所の機能強化を図ります。
	危機管理消防課			
③	行政の防災対応力の強化	●職員防災マニュアル策定に伴い、策定したマニュアルの検証及び防災対応力を高めるための訓練や研修を実施しました。 ●災害対策本部機能の充実として、災害対応の共有化を図るシステムに関し、現在運用している防災行政無線と連動している情報共有システムの本格運用を開始し、関係部署が活用できるよう操作研修を実施しました。	普通	●継続して策定している職員防災マニュアルの検証及び防災対応力を高めるための訓練や研修を実施します。 ●災害対策本部機能の充実として、災害対応の共有化を図るシステムに関し、現在運用している防災行政無線と連動している情報共有ソフトを更に活用できるよう継続して、関係部署と連携して操作研修を実施します。 ●新たな情報伝達手段の円滑運用及び更なる情報伝達方法について、調査・研究を行います。
	危機管理消防課			
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●災害発生時の対応において「自助・共助・公助」の連携は重要であるので、地域の自主防災組織の設立促進と活動活性化に向けた訓練や研修会の推進を引き続き行います。 ●備蓄食料や防災資機材の維持管理及び、整備充実に努めるとともに、各種事業等との災害協定の締結に努めます。 ●有事の際、市職員や市民が指定避難所のスムーズな開設、運営ができるよう、市の防災総合訓練や地域の防災訓練において避難所開設・運営訓練を推進します。 ●地震発生時の対策として、さらに家具固定の重要性を市民に周知し、家具固定の促進に取組みます。 ●職員の防災対応力の強化のため、地域防災計画や職員防災マニュアルを活用した研修や訓練を実施します。 ●災害対策本部機能の充実として、円滑な避難行動や迅速な災害対応につながるシステムの円滑運用に努めます。 ●防災行政無線放送の効果的な運用と他の情報ツールとの効率的な連携・活用を図るとともに、新たな情報伝達手段について調査・研究を行います。 ●不足している備蓄倉庫（防災倉庫）については、既存施設の有効活用も含め、関係部署と連携し、計画的な位置付けを行うとともに備蓄スペースの確保を進めます。 ●策定した受援計画に基づき、実際の受け入れ体制や施設についての検討を行います。 ●障害者や児童等の避難行動に支援を要する市民の避難計画を作成します。
--

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	他の府県において甚大な災害の報道発表により、市民意識調査の重要度については7位から13位になったが、満足度については7位に上昇しました。しかし、令和3年度に引続き災害が少なかったという結果論であって、地域防災力が向上したものではないと考えます。その結果が、成果指標にも表れており、全項目が達成に至らず、その殆どが達成するまでに相当な時間と労力を費やす必要があると考えます。新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の反響や意見を訓練や研修を通して多くの意見を聞けておりませんが、自治区長等から訓練の必要性・重要性についてのご意見を聞いていますので、地域の防災力は少しずつ向上しつつあると評価します。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-1-2	効率的で効果的な消防体制の整備	施策責任者	危機管理部長 木村 幸司
目指す姿	安全・速やかに活動できる消防体制を構築するとともに、市民が安心して暮らせるまちを目指します。			
関係課	危機管理消防課	個別計画	地域防災計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	8.1	23/40位	35.8	8/40位	●令和4年度実施の市民意識調査において、「効率的で効果的な消防体制の整備」の取組に対する満足度は、令和3年度調査結果から上昇、重要度は低下する結果となりました。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じ、可能な限り消防活動等を実施したことにより市民の認知度が上がったことが大きな要因と考えられます。また、重要度が低下したことについては、建物火災や災害救助等の件数が少なかったことが要因と考えられます。
R 3	9.4	19/40位	35.2	11/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	消防団員の充足率	%	実績	97.2	97.2	96	95.2	94.7	100	定数1,407人 各年4/1現在数 H29:1376人 H30:1367人 H31:1367人 R2:1351人 R3:1339人 R4:1333人
			達成率(%)	97.2	97.2	96.0	95.2	94.7		
②	消防団活動が地域の防災力向上に貢献していると感じている市民の割合	%	実績	69.2	62	63.8	66.8	66.6	100	
			達成率(%)	69.2	62.0	63.8	66.8	66.6		
③	消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合	%	実績	52.6	54.3	45.1	44.5	45	70	
			達成率(%)	75.1	77.5	64.4	63.5	64.2		
④	消防学校・那賀消防組合への研修派遣回数	回	実績	7	9	2	4	4	10	
			達成率(%)	70.0	90.0	20.0	40.0	40.0		
⑤	消防団協力事業所制度登録事業所数	事業所	実績	0	6	7	7	7	7	
			達成率(%)		85.7	100.0	100.0	100.0		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①各部の団員数確保の努力により横ばいとなっています。
②令和3年度に比べ消防活動等が増えたことにより横ばいとなっています。
③新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じ、可能な限り各種訓練・行事を実施したことにより横ばいとなっています。
④新型コロナウイルス感染症の拡大状況を確認しながら、活動を継続しています。
⑤新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所への働きかけが困難であったため、横ばいとなりました。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●全国的に消防団員の高齢化や担い手の不足が進んでおり、新たな消防団員の確保が課題となっている一方で、全国的にも女性消防団員は増加傾向にあります。
●全国的にも、消防団員が減少しており、団員確保を目的に、報酬の見直しや、消防団活動の装備品の充実を図るなどの取り組みが必要となっています。
●本市消防団は、県内2位の消防団員数を有しているが、山間部団員の高齢化による後継者問題、サラリーマンなどの被用者団員の増加により、消防団員確保のための新しい取り組みが求められています。
●継続した取り組みとして、紀の川市消防団女性分団や紀の川市消防団本部近畿大学部において、各種訓練や啓発活動に取り組んでいます。また、学生消防団員活動認証制度の推進をしています。
●紀の川市消防団入団者がいる市内企業の理解を得て、紀の川市消防団協力事業者の登録を推進しています。
●本市の常備消防は、岩出市と2市により設置している那賀消防組合が担っており、非常備消防である消防団と密接に連携・協力し、消防体制を確立しています。
●建築物の不燃化が進み、住居の安全性も高まっているほか、関係機関と連携して防火意識の高揚を図る取り組みも推進していますが、毎年度、那賀消防組合の管轄地域において、多数の火災が発生しています。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎消防団員確保のため処遇の改善や多様な消防体制の構築、地域の現状に応じた組織の再編が必要です。
◎効果的な各種訓練を継続実施し、消防団員の能力向上を図ることが必要です。
◎消防施設・資機材の継続的な更新・整備が必要です。
●消防団の活動を広く認知してもらう取組が必要です。
●災害時には、地域の企業や女性防火クラブ等の協力体制の構築が必要です。
●火災や行方不明搜索等には迅速な状況把握が必要なため、ドローン等の先端技術を活用できる組織的な人材確保が必要です。
●那賀消防組合の運営について、現状では人事、施設整備等の予算については2市の協議が必要で、場合によっては迅速性を求められる案件でも円滑に進まない事もあります。2市それぞれの特性を活かしたまちづくりを実施していくため、それぞれの市で独立した消防局（消防署）設立や常備・非常備消防の一体運営等の検討が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	消防・救急・救助体制の充実	●消防団協力事業所制度を普及させるため、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら啓発活動をしました。 ●消防団の質の向上のため、活動時の安全確保につなげるよう基本的な訓練を、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながら実施しました。 ●女性消防団の活動の場を広げていけるよう計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながらの実施となりました。 ●学生消防団の活動の場を広げていけるよう計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながらの実施となりました。 ●県消防操法大会出場に係る選手団員や消防団幹部の負担軽減を図る取組を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により大会の出場は辞退となりました。 ●消防団員の処遇改善に関し、団員報酬の見直しや安全装備品の充実等を推進しました。	普通	●那賀消防組合との連携を強化し、消防・救急・救助体制を充実させます。 ●地域のために活動する消防団員を応援するため、「消防団応援の店」制度を創設します。 ●山間部などの団員の高齢化、後継者問題に対応するため、地元との調整を図りながら、再編成を含めた効率的・効果的な消防団体制を検討します。 ●消防団協力事業所制度を普及させ、消防団員が活躍しやすい体制づくりを構築し、被用者団員の増加による日中の機動力低下防止を図ります。また、消防団体制を強化するため、学生消防団認証制度を浸透させます。 ●消防団員の能力向上のため、消防団強化制度を充実させ、消防に関する知識の習得と消防団員間における指導体制を強化します。また、ドローンを活用した消防団活動を充実させるため、団員のドローン操縦者を育成します。 ●女性分団、学生分団近畿大学部の育成を継続的にを行い、消防団活動の活性化を図ります。
	危機管理消防課			
②	火災予防対策の推進	●消防団の女性分団や学生分団、また女性防火クラブの活動を活発化させ、地元消防団や自主防災組織とも連携して、地域や家庭への火災予防啓発を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により自粛もしくは、必要最小限の事業実施となりました。	普通	●消防団の女性分団や学生分団、また女性防火クラブの活動を活発化させ、地元消防団や自主防災組織とも連携して、地域や家庭への火災予防啓発に努めます。 ●那賀消防組合と連携し、火災警報器の適正な設置を推進します。
	危機管理消防課			
③	消防施設・装備の計画的な整備	●必要なときに必要なものが正しく使えるように、消防器具庫、防火水槽、また、ドライブレコーダー搭載の小型動力ポンプ積載車などの計画的な修繕・整備を行いました。 ●消防団員の安全を確保するため個人装備品（活動服、ヘルメット等）やデント等の資機材の充実を図りました。 ●本市消防団本部の消防体制の充実強化を図るため、ドローンの点検整備を実施して、火災や行方不明捜索に迅速な対応を行いました。	普通	●必要なときに必要なものが正しく使えるように、消防器具庫、防火水槽、また、ドライブレコーダー搭載の小型動力ポンプ積載車などの計画的な修繕・整備を行います。 ●引き続き、消防団員の安全を確保するため個人装備品の充実を図ります。 ●本市消防団本部の消防体制の充実強化を図るため、高性能ドローンを増設して、水難捜査や大規模災害時の人命救助を迅速に対応できるよう整備を行います。
	危機管理消防課			
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●消防団員確保のため処遇の改善（報酬見直しや安全装備品の充実等）や多様な消防体制の構築、地域の現状に応じた組織の再編に取り組みます。 ●効果的な各種訓練を継続実施し、消防団員の能力向上を図ります。 ●消防施設・資機材の継続的な更新・整備を進めます。 ●消防団の活動を広く認知してもらうよう取り組んでいきます。 ●災害時には、地域の企業や女性防火クラブ等の協力体制の構築に取り組んでいきます。 ●火災や行方不明捜索等には迅速な状況把握が必要なため、ドローン等の先端技術を活用できる組織的な人材確保を進めます。 ●那賀消防組合の運営について、現状では人事、施設整備等の予算については2市の協議が必要で、場合によっては迅速性を求められる案件でも円滑に進まない事もあります。2市それぞれの特性を活かしたまちづくりを実施していくため、それぞれの市で独立した消防局（消防署）設立や常備・非常備消防の一体運営等の検討が必要です。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	紀の川市においても消防団員の高齢化や被雇用者団員が多く、その対策として消防団女性分団や学生分団の結成、消防団協力事業所表示制度の推進等、消防体制の整備を計画し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら可能な限り実施したことにより、消防団や女性消防団活動のうち訓練、会議等の回数は目標及び令和3年度を上回りました。市民意識調査の「効率的で効果的な消防体制の整備」に対する満足度は若干上昇し8位となりました。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-1-3	災害に強いまちの形成	施策責任者	建設部長 井ノ上 益秀
目指す姿	大規模自然災害に備えた対策を進め、安全・安心な居住地が確保されているまちを目指します。			
関係課	建設総務課、道路河川課、都市計画課、住宅政策課、農地整備課、危機管理消防課	個別計画	地域防災計画、公営住宅等長寿命化計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	27.0	3/40位	12.7	28/40位	●国・県管理河川において、土砂が堆積しており草・木が生茂り川の流れが阻害されているため、堆積土の浚渫および草・木の伐採の要望が寄せられています。
R 3	31.5	2/40位	15.2	26/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	災害対策に対して満足と感じている市民の割合	%	実績	27.2	28.3	32.2	30.1	35.9	50	
			達成率 (%)	54.4	56.6	64.4	60.2	71.8		
②	警戒を要するため池の改修率	%	実績	20.1	20.9	24.3	25	26.1	25	防災重点農業用ため池302箇所（目標：100箇所）
			達成率 (%)	80.4	83.6	97.2	100.0	104.4		
③	住宅耐震改修の補助件数	件	実績	16	13	13	21	12	30	
			達成率 (%)	53.3	43.3	43.3	70.0	40.0		
④	市営住宅の耐震化率	%	実績	68	67.7	68.2	68.2	69.2	75	
			達成率 (%)	90.6	90.2	90.9	90.9	92.2		
⑤	水防訓練・講習会	件	実績	4	4	2	2	4	4	
			達成率 (%)	100.0	100.0	50.0	50.0	100.0		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①近年の線状降水帯による集中豪雨や毎年頻発する台風等の被害から守るため、治水対策事業を随時行っているがハード事業だけでは目標値達成は難しいと考えます。
②ため池改修が進み安全性の向上が図られているが、地元受益者の同意が必要になることや、多額の費用がかかり事業期間も複数年となるため、事業推進に期間を要します。なお、防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法（令和2年10月1日施行）により、防災重点農業用ため池として令和5年3月31日現在302箇所を県が指定しています。
③年度によって増減はあるが、一定数の改修工事がなされており、耐震化が図られています。
④公営住宅等長寿命化計画に基づき集約的建替住宅の建設を計画しています。耐震性の無い住宅を除却したので実施率は上昇しています。
⑤新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、訓練を実施しました。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●多くの農業用ため池があり、施設の老朽化や機能不足により、豪雨・地震時に警戒を要するため池が増加しています。そのため、県の定める「ため池改修加速化計画」に沿って計画的な改修を実施しています。
●公営住宅等長寿命化計画に基づき、改修工事を実施しています。耐震基準を満たさない住宅について、集約的建替え・除却を計画しています。
●国、県の補助制度を活用し、旧耐震基準で建築された一般住宅の耐震化促進を図っています。
●農村地域の防災・減災力向上に向け、令和2年10月に「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」が施行されました。
●市が管理する準用河川と普通河川において、土砂の浚渫等河川氾濫を未然に防ぐよう努めています。
●紀の川の大雨洪水時の対策として国土交通省が行っておりました紀の川岩出狹窄部対策事業が令和3年3月に完成し、引き続き藤崎狹窄部対策、麻生津無堤防地区対策に着手しています。
●洪水・土砂災害・ため池ハザードマップを作成済みです。
●管内には56ヶ所の排水機場・排水樋門等が設置されています。（国管理樋門等33ヶ所、市管理樋門等16ヶ所、市管理排水機場7ヶ所）

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎過去の被害を検証し、同様の被害が発生しないよう治水対策や土砂災害対策が必要ですが、ハード面での対応には限界があります。
◎さらなる危険箇所の周知や情報提供を行い、市民の安全意識を高めることが必要です。
◎ため池をはじめとした農地・農業用施設の地域ぐるみによる保全管理や整備改修が必要です。
●ため池改修については、ハザードマップにより防災意識の向上と併せて地元・水利関係者への安全に対する理解が必要であるため、今後も事業に関する説明及び啓発を引き続き推進します。
●ため池の防災工事を進めるには、全面改修では事業費も高額となり改修にも数年が掛かり、計画的な整備も難しくなっているなか、部分改修を増加させることが必要です。また、放置され使用されていないため池については関係者と協議の上、可能なため池については用途廃止及び防災対策工事を実施することで、ため池決壊及び下流域浸水の被害を軽減させることが必要です。
●排水機場や排水樋門等の施設の老朽化に伴う適正管理や施設の更新及び想定を超える災害に備え新たな施設の整備が必要です。
●安定的な施設の運用に向けた体制づくりが必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	治水対策の推進	●岩出狹窄部対策事業について完成しました。 ●改訂版ハザードマップを活用し、市民に対して各地域の危険箇所について注意喚起と周知を行いました。 ●市が管理する準用河川と普通河川について、河川氾濫を未然に防ぐため、構造物の修繕や河道に生えている立木の撤去・堆積土の撤去を行いました。 ●藤崎狹窄部対策・麻生津無堤防地区対策について、早期完成を要望しました。	普通	●市が管理する準用河川と普通河川の氾濫・浸水被害を未然に防ぐため、計画的に河川の浚渫や護岸改修を進めます。 ●藤崎狹窄部対策・麻生津無堤防地区対策について、早期完成を要望します。 ●水防法に基づき見直された浸水想定区域を反映させたハザードマップを作成し、各戸配布することにより各地域の危険箇所について注意喚起と周知を行います。 ●過去の大雨等で浸水した実績のある3地区（貴志川町丸栖・貴志川町前田・桃山町調月）の河川に設置した水位観測装置により水位の上昇による市道の冠水状況及び自主避難の目安として地域住民に知らせ被害の軽減を図ります。
	建設総務課、道路河川課、危機管理消防課			
②	土砂災害防止対策の推進	●県に対し、土砂災害防止対策の要望を行いました。 ●改訂版ハザードマップを活用し、市民に対して各地域の危険箇所について注意喚起と周知を行いました。	普通	●引き続き、県に対し土砂災害防止対策の要望を行います。 ●土砂災害防止法に基づき見直された土砂災害警戒区域を反映させたハザードマップを作成し、各戸配布することにより各地域の危険箇所について注意喚起と周知を行います。
	建設総務課・危機管理消防課			
③	農地・農業用施設の災害対策の推進	●防災重点農業用ため池の防災工事については、受益面積、事業費の条件に合う工事について、県営で改修を進めています。 ●激甚災害により、農業用施設等災害復旧補助について令和5年度に拡充しました。 ●国営総合農地防災事業の事業推進を行いました。 ●防災重点農業用ため池の防災工事が実施出来るように地元と協議を行いました。 ●排水機場・排水樋門等の施設・器具の点検整備を適正に行いました。	普通	●ため池の防災工事について、県営事業以外のため池（受益2ha以上から5ha未満）団体営についても改修を行っていく必要があります。 ●使用されず放置されているため池については、廃止を推進します。 ●劣化状況及び豪雨耐性評価に基づき改修計画を進めて行くうえで全ての防災重点農業用ため池の防災工事について、今後、地元負担金を求めない事を検討する必要があります。 ●排水機場・排水樋門等の施設・器具の老朽化による対策及び想定を超える災害に備えた新たな施設整備を適正に行っていきます。 ●排水機場・排水樋門等操作員へ災害時の待機・出動の連絡調整や訓練・研修の実施、契約・支払い等の実績管理を行います。
	農地整備課・危機管理消防課	●排水機場・排水樋門等操作員へ災害時の待機・出動の連絡調整や訓練・研修の実施、契約・支払い等の実績管理を行いました。		
④	住宅耐震化の促進	●さまざまな機会を通して、住宅耐震化の重要性に関する啓発を進めています。また、耐震診断や耐震設計、改修に要する経費の補助を行うことで、耐震化を促進しています。 ●耐震強度が不足する市営住宅の一部を除却しました。 ●集約的建替住宅建設予定地の用地取得しました。	普通	●住宅耐震化の重要性に関する啓発を進めていきます。また、国、県の補助制度を活用し、耐震化を促進します。 ●公営住宅等長寿命化計画に基づく改修を進めていきます。耐震強度が不足する住宅については、除却を進めます。また、市営住宅の建替え等を計画していきます。
	住宅政策課			
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●国営総合農地防災事業の着手箇所において、国・県と連携をとり、地元関係者、関係機関と調整し早期に湛水被害を軽減できる対策を順次進めます。あわせて、関連事業で排水機場の新設及び既存排水機場の延命化を図ります。 ●県ため池改修加速化計画を優先し、防災重点農業用ため池の改修を進めます。改修に伴う地元負担金の軽減と地元関係者等への事業調整を行い改修箇所を増やし、ため池の安全性の向上に努めます。また、地域住民や自主防災組織がハザードマップを活用した地域での防災訓練を実施できるよう、各地区に配布し、危険箇所について注意喚起と周知を行い市民の防災意識を高めます。 ●公営住宅等長寿命化計画に基づき集約的市営住宅の建替え・耐震強度が不足する市営住宅の除却を進めます。また、市民に対しては住宅耐震化の重要性について啓発を進めます。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	大雨により貴志川の水位が上昇し、内水による冠水や浸水が起きている岩出狹窄部対策事業が完成し、更に国営総合農地防災事業を実施しており、事業の進捗により少しずつ軽減が図られています。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-1-4	防犯・交通安全対策の推進	施策責任者	危機管理部長 木村 幸司
目指す姿	交通安全や防犯に対する意識を高めるとともに、安全な交通環境の整備や防犯対策を行い、交通事故や犯罪の起きにくいまちを目指します。			
関係課	交通政策課、危機管理消防課、商工労働課、道路河川課、教育総務課	個別計画		

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	16. 7	12/40位	19. 3	24/40位	●令和4年度実施の市民意識調査において、「防犯・交通安全対策の推進」に対する重要度は、令和3年度調査結果から下がりましたが、満足度はやや上がる結果となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により事業の自粛や縮小を行いました。LED防犯灯設置数の増加等により、満足度は若干上昇したことが考えられます。また、重要度については感染症対策や他の施策に関心が傾いたため、低下したものと考えます。
R 3	20. 7	5/40位	14. 2	27/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	市内交通事故発生件数（人身事故）	件	実績 達成率 (%)	149	97	92	98	90	前年度実績値未満	岩出署管内 R2：200件 R3:211件 R4:209件
②	高齢者（65歳以上）の事故発生件数	件	実績 達成率 (%)	51	40	39	44	26	前年度実績値未満	岩出署管内 R2：79件 R3:85件 R4:85件
③	犯罪率	‰	実績 達成率 (%)	6. 16	4. 25	4. 7	3. 47	3. 76	前年度実績値未満	県内 R1：4. 67‰ R2：4 . 22‰ R3:3. 47‰
④	自治会の防犯カメラ設置数	件	実績 達成率 (%)	5 50. 0	8 80. 0	9 90. 0	9 90. 0	7 70. 0	10	
⑤	消費者問題相談件数	件	実績 達成率 (%)	142	115	167	148	180	前年度実績値未満	岩出市 R2：149件 R3：13 8件 R4：185件

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①令和元年度から低い数値で横ばいです。車の安全装置の普及に伴い減少傾向にあると考えられます。
②令和3年度と比較し大幅（△18件）に減少しました。これも、車の安全装置の普及や運転免許証返納等が要因になっていると考えられます。
③令和元年度から減少傾向にあり、令和4年度は令和3年度とほぼ同数となっています。
④目標件数に至らなかったが、各自治区からの問い合わせ等が増加しており、関心が高まっています。
⑤全国的に消費者を取り巻く環境の多様化、複雑化が著しく、とりわけインターネット通販が身近になるにつれて相談件数が増加傾向にあります。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●国の交通安全の推進においては、①歩行者の安全確保②安全運転意識の向上③自転車運転マナーの向上を中心にそれぞれの施策が実施されています。
●交通事故においては、高齢者の割合が約3割と減少傾向にあります。警察では、運転経歴証明書制度の周知や運転免許証を返納した方への支援の強化に努めています。
●交通安全を推進するため、交通安全推進連絡協議会や交通指導員会、交通安全母の会を設立しています。
●令和4年4月から自動車等の運転前後のアルコールチェックが義務化されました。
●放棄自動車等の防止及び処理に関する条例を制定しています。
●特殊詐欺が増加しており、多岐にわたり巧妙化してきています。
●地域全体で監視し安全確保を行うため学校や地域、行政、警察が連携しています。
●各自治区が自立して地域防犯の推進を行えるよう防犯カメラ・防犯灯の設置補助金交付要綱を制定しています。
●消費者を取り巻く環境は、情報化が著しく進展していること等により、多様化かつ複雑化しています。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎小中学生の自転車マナーの向上と高齢者の交通安全対策などの取組が必要です。
◎特殊詐欺の被害件数は年々増加し、高齢者の被害が大半を占める巧妙化、複雑化した特殊詐欺に対する対策が必要です。
●ガードレールやカーブミラー等の交通安全施設を関係機関と連携して適正に整備していく必要があります。
◎街頭犯罪で、例年から特に岩出署管内での発生件数が多い「自転車盗」「万引き」への対策が必要です。
●消費者問題に適切に対応するために人材育成と市民の関心を高めることが必要です。
◎多様化、複雑化している悪徳商法や消費者問題に適切に対応することが必要です。
●地域ぐるみで、犯罪の起こりにくい体制や環境づくりが必要です。
●駐輪マナーの啓発や駐輪場の監視等の対策が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	交通安全意識の向上推進	●各種交通安全啓発は、交通安全推進連絡協議会を中心に交通指導員会などと連携して、各種啓発品等を配布し実施しましたが、新型コロナウイルス感染防止の影響により、実施規模・回数を縮小しました。 ●各学校において岩出警察署と連携し、交通安全教室を開催し、交通安全教育を推進しています。 ●高齢者や児童などに対象を絞った交通安全教室は、新型コロナウイルス感染症の影響で申し込みがありませんでした。 ●高齢者を対象とした交通大学は、新型コロナウイルス感染症の影響によりカリキュラムを絞り縮小して実施しました。	普通	●段階的かつ体系的な交通安全教育の推進の観点から、小中学生の自転車マナー及び高齢者の交通マナーの問題に対して幼少期から高齢者までの交通安全教育を検討し、その段階（年齢等）に応じた交通安全教室を実施します。 ●高齢者に関する事故は全国的にも多く発生していますので、本市においても関係機関と連携して、運転免許証返納者に対する公共交通の充実などの支援策の検討を進めます。
	交通政策課・教育総務課			
②	交通安全施設の整備	●交通規制に関する要望を受理し、関係機関に相談や要望を行っています。 ●自治区の要望により、飛び出しが危険と思われる場所に設置する飛び出し防止看板を配布しました。 ●交通事故を減少させるため、関係機関と連携し、ガードレールやカーブミラー、標識等を整備・要望しました。 ●交通安全・歩行者安全等の確保のため、区画線・グリーンベルト等を設置しました。	普通	●交通事故を減少させるため、関係機関と連携しガードレールやカーブミラー、標識等を整備します。また、国道・県道に関しては国・県に要望します。 ●通学路合同点検の結果により対策が必要となった箇所に対して計画的にグリーンベルトや区画線などを設置します。
	交通政策課・道路河川課			
③	放置自転車対策の推進	●市管理地など公共の場を確認し、放置自転車を処分しました。 ●駐輪マナー向上に向けた啓発は、新型コロナウイルス感染防止の影響により活動を自粛しました。	普通	●駐輪場などでの駐輪マナーを啓発することにより、歩行者への配慮や盗難防止を推進します。 ●放置自転車等対策として、各駅駐輪場などの見回りを強化、または放置されにくい環境整備などについて、関係機関と連携して検討します。
	交通政策課			
④	地域防犯対策の推進	●防犯啓発活動を実施するとともに、不当要求防止責任者に講習会を実施しています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を自粛しました。 ●暴力団追放大会を開催し、暴力団の排除に向けた意識の高揚を図っています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を自粛しました。 ●特殊詐欺に狙われやすい高齢者に向けて防犯教室も実施しています。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を自粛しました。 ●駅駐輪場に設置している防犯カメラは、犯罪抑止と犯罪の早期解決に繋がっており、警察からの防犯カメラ映像の情報提供依頼に協力しました。 ●市が自治会に対して防犯灯や防犯カメラの設置費用の一部を補助することで、各自治区の実情に即した効果的な防犯施設の整備の充実が図られています。	普通	●増加している特殊詐欺等の被害を減少させるため、関係機関に専門知識を持った講師の派遣を依頼し、防犯教室等を開催します。 ●犯罪がおこりにくい環境づくりのため、各自治区への防犯灯・防犯カメラ設置等に係る支援を行ない、地域の防犯対策を推進します。 ●公共施設への防犯カメラの設置を推進します。
	危機管理消防課			
⑤	消費者の安全対策の推進	●消費生活相談窓口を設置し専門相談員等による消費生活に関する相談を受け付けるとともに解決に向けたアドバイスを行いました。 ●市主催イベント時に啓発活動を実施しました。 ●県内9市担当者間で、情報交換会を実施しました。	普通	●問題解決に導くためスキルアップを図る研修・講座へ積極的に参加します。 ●効率性を高めるため、消費生活センターの設置も含めた体制整備について岩出市と調整・検証を進めます。 ●効果的な啓発手段を再考します。
	商工労働課			
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

●通学路安全点検について、各小中学校から危険箇所の報告をうけ、学校・警察・道路管理者（国・県・市）・教育委員会が現地において立会いし改善方法を検討、改善可能な箇所から年次計画的に改修しています。

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●小中学生の自転車マナー向上の啓発と高齢者の交通安全対策や運転免許証返納者に対する支援策の検討を進めます。 ●特殊詐欺の被害件数は年々増加し、高齢者の被害が大半を占める巧妙化、複雑化した特殊詐欺の対策を関係機関と連携し進めます。 ●ガードレールやカーブミラー等の交通安全施設を関係機関と連携して適正な整備を進めます。 ●街頭犯罪で、例年から特に岩出警察署管内での発生件数が多い「自転車盗」「万引き」への対策を岩出警察署や関係団体と連携して進めます。 ●消費者相談には、行政職員での対応が困難な事案も増加していることから、体制を強化するために職員のスキルを向上させ、関係機関と連携を図り、常に最新の情報を収集し、市民に対する情報提供、啓発、周知を行います。 ●多様化、複雑化している悪徳商法や消費者問題を関係機関と連携して適切に対応を進めます。 ●地域ぐるみで犯罪の起こりにくい体制や環境づくりを関係機関と連携して進めます。 ●駐輪マナーの啓発や駐輪場の監視等の対策を進めます。 ●犯罪抑止と犯罪の早期解決のため、防犯灯と防犯カメラ設置の啓発と補助を引き続き行い、犯罪を抑制して夜間でも安全で安心なまちづくりを進めます。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	本施策の取組については、成果に現れにくいのですが、市のみの取組みだけではなく、警察、関係機関・団体等と連携して、交通安全教室や高齢者に向けての防犯教室などを開催し、継続的に交通事故や犯罪がおこりにくい環境づくりが必要となります。令和4年度は、新型コロナウイルス感染防止の影響により、各活動の規模や回数を縮小したり、活動自体を自粛することとなりました。また、市民意識調査の「防犯・交通安全対策の推進」に対する満足度も高くないため、「普通」と評価しました。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-2-1 健康づくりと疾病予防	施策責任者	市民部長 長岡 正
目指す姿	市民が健康な生活習慣や心の健康に理解を深め、自分に合った効果的な健康づくりに楽しく取り組めるまちを目指します。		
関係課	健康推進課、国保年金課	個別計画	健康増進計画、いのち支える自殺対策計画、特定健康診査等実施計画、国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	13. 1	16/40位	50. 7	2/40位	●令和4年度実施の市民意識調査によると、令和3年度と変わらず約6割の方が何らかの健康づくりに取り組んでいます。 ●令和3度に比べ、「健康づくりと疾病予防」の満足度は3位から2位に、重要度は19位から16位に上がっています。
R 3	9. 4	19/40位	51. 1	3/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	健康寿命 【男性】	歳	実績	78. 13	78. 82	79. 51	79. 94	79. 78	現状値以上	H27年度健康寿命（国） 79. 27（県）78. 34 平均寿命(国) 80. 77（県）79. 95（市）79. 99
			達成率（%）							
②	健康寿命 【女性】	歳	実績	82. 39	82. 95	83. 64	84. 4	84. 09	現状値以上	H27年度健康寿命(国) 83. 73（県）82. 97 平均寿命(国) 87. 01（県）86. 50(市) 86. 63
			達成率（%）							
③	各種がん検診受診率 【乳房がん検診】	%	実績	21. 5	20. 1	7	17	18. 6	30	69歳以下(R2) 国15. 6 県17. 6 市27. 8
			達成率（%）	71. 6	67. 0	23. 3	56. 6	62. 0		
④	特定健診受診率	%	実績	38. 2	40. 2	31. 8	35. 9	38. 2	41	R4年度36. 8%（県実績速報値）
			達成率（%）	93. 1	98. 0	77. 5	87. 5	93. 1		
⑤	健康づくりに意識的に取り組んでいる市民の割合	%	実績	56. 3	58. 4	59. 4	59. 7	60. 8	65	
			達成率（%）	86. 6	89. 8	91. 3	91. 8	93. 5		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①②健康寿命(日常の生活が自立している期間)の算出方法は複数ありますが、市では介護度2～5の人数を使って計算しています。平均寿命との差が寝たきり期間となります。市独自に算出した平均寿命(男) 81. 46歳、（女）87. 44歳から健康寿命を差し引くと寝たきり期間は、男性 1. 67年、女性 3. 34年です。

③各種がん検診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、がん検診は不要不急に当たらないことを周知し、医療機関はもちろん集団検診会場でも感染対策を実施した結果、受診率は徐々に回復しています。

④新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け減少した特定健診受診率は、回復傾向にあります。引き続き受診率向上のための啓発や、効果的な受診勧奨を実施していく必要があります。

⑤健康づくりに意識的に取り組んでいる市民の割合は、全体で6割です。令和3年度と比べると、40代は横ばい(58. 6%→58. 7%)ですが、50代で11. 5%(56. 1%→67. 6%)の増加となっています。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●国は、令和6年度から始まる健康日本21(第三次)のビジョンを「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」とし「誰一人取り残さない健康づくり」を推進するため「より実効性を持つ取組の推進」に重点を置いています。

●国は、第4期がん対策推進基本計画で、全体目標として「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す」を掲げています。

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を講じたうえでの集団特定健診の実施が必要であり、感染状況などに対応した臨機応変な対応が必要となっています。

●国は、積極的勧奨差し控えにより接種機会を逃した子宮頸がんワクチンの対象者に対して、公平な接種期間を確保する観点から、令和4年4月から令和7年3月末まで、定期接種の対象年齢を超えて接種する(キャッチアップ接種)機会を設けています。また、令和5年4月から9価ワクチンの定期接種が開始されています。

●令和4年の自殺死亡率は17. 5で、男女ともに増加しており、男性の自殺者数は、女性の約2. 1倍となっています。

●国は、高齢者の医療の確保に関する法律など関係法令等を改正し、令和6年度までに全市町村で高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施することを義務付けました。（令和4年度末時点県内実施済：9市町村）

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎市民の主体的な健康づくりを支援するため、健康に関する正しい情報提供が必要です。

◎世代ごとに異なる健康課題やライフサイクルに応じた、より良い運動習慣・生活習慣を定着させる取組が必要です。

◎健康寿命の延伸を目的とした「紀の川市民健康づくり11か条」の広報および実践の推進が必要です。

◎若い世代のがん検診受診率の向上を図る取組が必要です。

●がん死亡率の減少を目的とした国（厚生労働省）の指針に基づく「がん検診」精度管理体制の確立が必要です。

●がんに罹患しても尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築、がんとの共生社会に向けた取組が必要です。

◎特定健診受診率・特定保健指導利用率の向上と、糖尿病をはじめとした生活習慣病の重症化予防に対し、引き続き効果的な取組が必要です。

●和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施を開始しました。引き続き庁内関係課や関係機関と連携をとり効果的・効率的に事業を進めていくことが必要です。

●自殺を「社会の問題」として捉え、自殺のリスク要因を減らし、生きることの促進要因を増やす包括的な支援の取組が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	正しい生活習慣の定着を図る取組の充実	●市民の健康課題の解決を目指した第3次健康増進計画の策定のため、市民アンケートを実施しました。 ●運動習慣をつけてもらうために1日8,000歩、中等度の早歩き20分に取り組みめるよう「チャレンジ100万歩」を行っています。 ●10月の乳がん月間には、庁舎に懸垂幕、乳がん検診啓発ブースを設置し、休日に乳がん検診を実施しました。 ●1月の集団がん検診時に骨密度測定を実施しました。 ●令和3年度及び令和4年度に食生活改善推進員の養成講座を開催し、13名の食生活改善推進員を養成しました。	普通	●健康づくり推進協議会を開催し、第3次健康増進計画を作成し市民の健康づくりを推進します。 ●健康に関心のある企業と連携して、40代・50代の人をターゲットとした、運動習慣の定着を図る取組を検討します。 ●10月の乳がん月間での取組を継続します。 ●骨粗しょう症検診時の食事・運動指導の実施を検討します。
	健康推進課			
②	疾病予防・重症化予防対策の充実	●新型コロナウイルスワクチン接種を医師会等の協力の下、集団接種・個別接種に取り組んでいます。 ●検診の希望調査を世帯宛から個人宛に変更し、検診の情報が届きやすい仕組みへと変更することで、受診率向上に取り組んでいます。 ●子宮頸がん検診の20代30代の対象者へ個別に通知を送付し、若い世代の子宮頸がん検診の受診率向上を目指しています。 ●アピランスケアや生殖機能温存など、補助金制度を新設しました。 ●歯周疾患検診の啓発のため、集団検診会場にてチラシを配布しました。 ●いのち支える自殺対策計画推進のため、ゲートキーパー研修を実施しました。 ●子宮頸がん（HPV）ワクチンのキャッチアップ接種の対象者も含め、ワクチンと子宮頸がん検診勧奨の通知を送付しました。 ●感染症・食中毒・熱中症等で生命が脅かされることのないよう、正しい知識の普及啓発に取り組んでいます。	普通	●健康管理システムリプレイス時に、国が進めるシステム標準化の対応に向け検討する必要があります。 ●二重読影体制を継続し、精度管理を充実させた体制づくりが必要です。 ●集団検診での骨粗しょう症検診の導入を検討します。 ●子宮頸がん（HPV）ワクチンについて、情報を発信するとともに、子宮頸がん検診の未受診対策や若い世代のがん検診の受診率向上に取り組めます。 ●第2次いのち支える自殺対策計画を作成し、引き続き自殺対策推進のための取組を検討します。
	健康推進課			
③	特定健診・特定保健指導の充実	●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮しながら、集団特定健診の実施及び、特定保健指導を実施しました。 ●特定健診対象の若年層（40～50歳代）に対し、電話による受診勧奨を実施し、受診率の向上に努めました。 ●特定健診の未受診者に対し、受診勧奨のはがきを送付し受診率の向上に努めました。 ●集団特定健診会場において、特定保健指導を実施し、特定保健指導利用者増加に努めました。 ●生活習慣病の重症化予防のため、生活習慣改善に取り組むきっかけづくりとして、活動費用の一部を補助する運動継続支援事業を開始しました。 ●高齢者の医療の確保に関する法律など関係法令等が改正され、令和6年度までに全市町村で高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施することが義務付けられたため、令和4年度から事業を開始しました。	普通	●新規の国民健康保険加入者に対して個別特定健診受診券の発行や、国保被保険者で受診確認ができない方に対して、はがきや電話による受診勧奨や、個別特定健診受診券の再送付を行い、特定健診の受診率向上に取り組めます。 ●健康意識向上のため、集団健診会場において導入した健診以外の健康チェックに引き続き取り組みます。 ●生活習慣病の重症化予防のため、生活習慣改善に取り組むきっかけづくりとして、事業内容を周知し、引き続き運動継続支援事業の利用促進に取り組めます。 ●庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に引き続き取り組みます。
	国保年金課			
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

- 避難所での感染症対策のため、運営手順や感染症対策物品を配置し避難所での感染症予防対策の取組を行っています。
- 透析への移行者の増加を抑制するため、引き続き医療機関と連携し、糖尿病性腎症重症化予防事業を実施します。

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

- 第2期データヘルス計画及び第3期特定健康診査等実施計画が令和5年度末で計画期間が満了するため、次期計画策定に向けた業務を開始します。
- 令和5年度中に第3次紀の川市健康増進計画を作成し、市民の健康づくりを推進します。
- 健康日本21(第三次)の新たな視点である、女性の健康に関する取組を検討します。
- 健康管理システムリプレイスに合わせて、地方公共団体情報システム標準化への対応をします。
- 二重読影体制を継続し、検診の精度管理の向上に引き続き取り組みます。
- いのち支える自殺対策計画が令和6年度末で計画期間が満了するため、次期計画策定に向けた業務を開始します。
- 子宮頸がん検診の受診率向上とワクチン接種率向上に取り組めます。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	●特定健診受診率の向上のため、未受診者対策を充実させるとともに、若年層に対し健康に対する意識づけをし特定健診受診に繋げていく事業も継続して実施します。 ●対象者が生活習慣病の重症化予防を目的に、運動を継続的に生活習慣として取り入れるための活動費用の一部を補助する運動継続支援事業を開始し、生活習慣改善への取組を支援しています。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-2-2	地域医療体制・医療サービスの充実	施策責任者	市民部長 長岡 正
目指す姿	市民の誰もが必要なときに安心して質の高い医療サービスを受けることができるまちを目指します。			
関係課	健康推進課、国保年金課		個別計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	30. 0	1/40位	32. 6	12/40位	●地域医療体制の満足度を計る「令和4年度紀の川市市民意識調査」で45. 1%の方が、「満足」・「まあ満足」と回答されています。
R 3	34. 3	1/40位	36. 6	9/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	かかりつけ医を持っている人の割合	%	実績	69. 8	68. 5	65. 8	63. 1	67. 7	75	県目標（R5） 90%
			達成率（%）	93. 0	91. 3	87. 7	84. 1	90. 2		
②	地域医療に満足していると感じている市民の割合	%	実績	41. 5	41. 8	45. 1	52	49. 9	現状値以上	
			達成率（%）							
③	救急医療をいつでも受けられると感じている市民の割合	%	実績	59. 4	59. 4	59. 4	57. 3	57. 3	現状値以上	
			達成率（%）							
④	鞆渚診療所の年間延べ受診者数	人	実績	2, 509	1, 728	1, 488	1, 384	1, 218	現状値以上	鞆渚地区人口 R5. 3末 420人（H31. 3末 505人）
			達成率（%）							
⑤	子ども救急相談ダイヤル（＃8000）の利用件数	件	実績	566	485	363	379	526	400	県 7, 632件（R1） 5, 969件（R2） 5, 745件（R3） 8, 262件（R4）
			達成率（%）	141. 5	121. 2	90. 7	94. 7	131. 5		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①かかりつけ医をもっている人の割合は、やや増加傾向にあります。
②地域医療に満足していると感じている市民の割合は、やや減少しています。
③救急医療をいつでも受けられると感じている市民の割合は、令和3年度と同じ割合でした。
④鞆渚地域の人口減少に比例して、受診者数も減少しています。
⑤子ども救急相談ダイヤル(＃8000)利用者は、令和3年度よりも大幅に増加しており、県全体でもコロナ禍前の状況に戻りつつあります。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●国（厚生労働省）は、医療介護総合確保推進法に基づき、より良質な医療サービスが地域で受けられるよう、平成28年度に策定された地域医療構想で、協議を進めています。
●那賀保健医療圏においては、人口減少が県内の圏域中最も低いとされていますが、65歳以上高齢者に関しては急激な増加を見込んでいます。また、人口減少が予想される紀の川市と減少幅が少なく想定される岩出市で構成される圏域となることが予想されています。
●和歌山県の乳幼児医療費助成制度を基本に、紀の川市として独自に中学校卒業まで対象者を拡大し制度を運用してきましたが、さらなる子育て世帯の経済的負担軽減のため、令和5年8月1日診療分から18歳まで対象者を拡充するとともに、19歳から24歳までの大学生等の入院に係る自己負担分に対しても助成を行うよう制度の拡充を行いました。
●安定的なへき地医療の提供に向けて、現在老朽化した鞆渚診療所の新築移転を進めています。
●県は、地域で不足する外来医療機能を検討するにあたり、新規開業者に在宅医療、初期救急を担うよう求める考え方を示す外来医療計画を令和元年度に策定しました。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎入院医療機関と在宅医療との連携を図り、患者の状況に合った質の高い医療体制の構築が必要です。
◎安心して医療が受けられる環境の整備として、関係機関と協力して適切な情報を提供することが必要です。
◎人口構造に見合った、救急医療体制の充実が必要です。
◎鞆渚診療所の安定運営のため収支改善につながる取組が必要です。
●那賀保健医療圏域として、人口構造や産業構造が異なった岩出市との連携体制の構築が必要です。
●和歌山県の乳幼児医療費助成制度の対象者の拡充を要望するとともに、国における財政支援を前提とした子ども医療制度の創設を要望していくことが必要です。
●紀の川市内に、分娩できる医療機関がない状況が続いており、産科誘致に向けた取組が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	地域医療体制の充実	●公立那賀病院の良質適正な医療提供のため、負担金の支払いを行なっています。 ●公立那賀病院内に設置された、一般社団法人那賀医師会在宅医療サポートセンターの運営を支援し、在宅医療と介護体制の推進に取り組んでいます。 ●骨髄の提供を受けた方も安心して生活ができるよう予防接種の助成制度の整備を行いました。 ●紀の川市に産婦人科を誘致するため、開設補助金を予算化し、全国の国保連合会、都道府県産婦人科医会へパンフレットを送付、ホームページにアップしています。	普通	●地域医療の拠点となる公立那賀病院の機能強化を進め、地域医療の支援病院として、地域の医療体制を維持していきます。 ●紀の川市に産婦人科を誘致するため、開設補助金を予算化し、周知活動を継続します。 ●高齢者のみならず、医療的ケア児や精神疾患患者の在宅医療の受け皿となる医療ネットワーク構築に取り組むことを関係課と連携しながら進めます。 ●骨髄提供者が安心してドナー登録できる支援に取り組みます。
	健康推進課			
②	救急医療体制の充実	●初期救急及び二次救急医療や、小児救急の整備や円滑な運営のため負担金を支払っています。 ●那賀休日急患診療所は、令和3年9月から新診療所で診療を開始しています。 ●赤十字血液センターと協力して輸血用血液の確保に努めています。 ●毎月、広報紙へ休日夜間診療の電話案内を掲載し情報提供に努めています。	普通	●那賀休日急患診療所が一次救急として、休祭日の地域医療を守る拠点として維持します。 ●在宅当番制の歯科救急医療、病院群輪番制による二次救急医療、小児救急医療を維持します。 ●市民がスムーズに救急医療受診ができるように情報提供に努めます。
	健康推進課			
③	福祉医療費助成の実施	●福祉医療費助成制度については、対象者への周知や、申請・更新書類の送付を行うなどし、きめ細やかな対応を行っています。 また、対象者に助成を行うことで、安心して医療機関を受診できるよう取り組んでいます。 ●子ども医療費助成制度については、令和5年8月1日診療分から18歳までの子どもの入院・通院に係る自己負担分及び、19歳から24歳までの大学生等の入院に係る自己負担分に対しても助成を行うよう制度の拡充を行いました。	高い	●広報紙や紀の川市ホームページ、また関係課と連携し、福祉医療制度の周知徹底を図り、すべての対象者の方が助成を受けられるよう取り組みます。
	国保年金課			
④	鞆渕診療所の安定的運営	●鞆渕診療所においては、指定管理者制度導入により、施設管理及び診療行為を指定管理事業者において行うことで、一般会計からの繰入金縮減など経費改善を実現しました。 ●「鞆渕地区公共施設等再編事業」においては、鞆渕診療所と鞆渕出張所の複合施設の建築予定地の造成工事を実施しています。	普通	●「鞆渕地区公共施設等再編事業」による鞆渕診療所の移設に合わせて、地元からの強い要望があるリハビリ事業を実施し、新たな収入を確保するため、関係機関や、指定管理事業者と協議を行っていきます。 ●鞆渕診療所の指定管理期間は令和5年度までとなるが、以降についても指定管理者による運営を継続して行っていきます。
	国保年金課			
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

●妊娠や妊娠を控えている女性が市外で出産する時の不安や経済的負担を少しでも解消することを目的とし、安心して出産を迎えることができるよう支援するため、妊婦健診を受診する際の交通費助成として「妊婦通院支援給付金」を支給します。

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●安心して医療が受けられるよう、適切な情報提供に努めます。
●紀の川市への産科誘致のため開設補助金を設け、申出があった場合は、産婦人科医誘致選考委員会において適切に審査を行います。
●公立那賀病院について、岩出保健所や一部事務組合の構成市である岩出市と連携しながら機能強化について検討し、安心して医療が受けられる体制について関係機関と連携し検討を進めます。
●災害時等の救急医療体制について、岩出保健所、公立那賀病院、那賀医師会等と連携を図ります。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	「鞆渕地区公共施設等再編事業」における鞆渕診療所の移転新築については、全体計画スケジュールのとおり実施できています。 那賀保健医療圏で、出産できる場所がなくなったことから、安心して生み育てることができる紀の川市となるためには、県などの関係機関への要望を続けるとともに、産婦人科医院誘致に向けて開設補助金があることを県外の医療機関等へ周知しており、継続して取り組んでいくことが必要です。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-2-3	医療保険制度の安定運営	施策責任者	市民部長 長岡 正
目指す姿	国民健康保険制度と後期高齢者医療制度を安定的に運営することで、誰もが安心して医療を受けることができるまちを目指します。			
関係課	国保年金課	個別計画	特定健康診査等実施計画、国民健康保険保健事業実施計画 (データヘルス計画)	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	17.6	8/40位	39.7	5/40位	●重要度及び満足度とも令和3年度と比較して順位が上昇している。理由として考えられるのは、新型コロナウイルス感染症などにより、一時的に医療保険制度の関心が高まっていたのではないかと推測します。
R 3	17.3	10/40位	40.7	6/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	国民健康保険被保険者1人当たりの医療費	円	実績 達成率 (%)	370,395	392,228	367,712	406,393	419,396	415,000	R1年度 県全体1人当たり医療費 381,614円
②	国民健康保険税収納率（現年分）	%	実績 達成率 (%)	96.01	95.9	96.5	96.8	97	96	R3年度 県平均 95.30 %
③	後期高齢者医療被保険者1人当たりの医療費	円	実績 達成率 (%)	950,016	970,633	919,795	943,964	980,651	1,005,000	R4年度 県全体1人当たり医療費 964,780円
④	後期高齢者医療保険料収納率（現年分）	%	実績 達成率 (%)	99.7	99.7	99.6	99.7	99.7	99.8	R4年度 県平均 99.71 %
⑤	国保世帯口座振替率	%	実績 達成率 (%)	35.4	35.1	33.8	34.7	35.6	40	R1年度 県下9市平均 39.87%

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①被保険者の高齢化や、医療技術の高度化及び、医療施設の充実などによる受診機会の増加のため、1人当たり医療費は増加となりました。
②滞納者への積極的な現年度への納付推進により、目標を超える成果となりました。
③医療技術の高度化及び、医療施設の充実などによる医療機会の増加のため、1人当たり医療費は増加となりました。
④口座振替の推進や、コンビニ納付などによる様々な納付機会の提供により、目標値と同様の高い収納率を確保することができました。
⑤納税通知や、更正通知の発送時に、口座振替利用の啓発を行っていますが、従来の金融機関での納付に加え、コンビニ納付や、スマホ決済などの多様な納付方法による納税機会を設けているため、口座振替率の目標は達成できませんでした。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●国民健康保険税については、和歌山県より国保事業費納付金とともに示される標準保険料（税）率を基本に、被保険者への負担軽減にも配慮しつつ、適切な賦課徴収に努めており、また適切な保険給付を行うことにより、安定的な国民健康保険制度の運営を行っています。
●令和5年4月1日以降の出産に係る出産育児一時金については、42万円から50万円に引き上げられました。
●マイナンバー法等の改正により、令和6年秋に健康保険証が廃止されます。
●令和6年1月から出産する被保険者について、産前産後期間の保険税を免除する制度が開始されます。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎年々増加する医療費の抑制、適正化を進める必要があります。
●国民健康保険制度の安定的な運営を図る必要があります。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	国民健康保険制度の 安定的運営	●和歌山県とともに保険者として、国民健康保険制度の安定運営に取り組んでいます。 ●被保険者の健康寿命を延伸することによる医療費削減を目的に、特定健診受診率の向上や糖尿病性腎症重症化予防、後発医薬品の利用促進に取り組んでいます。	普通	●和歌山県国民健康保険運営方針に基づき、安定的な国民健康保険制度の運営を推進します。 ●和歌山県から示される標準保険料（税）率を基本に、適切な税率設定を行います。 ●国民健康保険事業運営基金を適切に活用し、被保険者の負担軽減に努めます。 ●被保険者の医療費抑制を目的に、特定健診受診率の向上や糖尿病性腎症重症化予防、後発医薬品の利用促進や、重複多剤対策事業に取り組めます。
	国保年金課			
②	後期高齢者医療制度 の安定的運営	●和歌山県後期高齢者医療広域連合とともに、後期高齢者医療制度の安定運営に取り組んでいます。	普通	●被保険者の健康保持のための保健事業に取り組み、後期高齢者医療制度の安定的な運営と、医療費の適正化に努めます。
	国保年金課			
③				
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●特定健診や、特定保健指導により被保険者の健康寿命の延伸に努めるとともに、後発医薬品の利用促進や、重複多剤対策事業などを通じて、保険者負担額の軽減に努めます。 ●和歌山県国民健康保険運営方針に基づく統一保険料（税）の導入に向けて、和歌山県及び県内市町村と協議のうえ進めるとともに、被保険者への急激な負担増加とならないよう適切な税率設定に努めます。
--

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	国民健康保険の保険者として、適切に運営を行っています。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-3-1	地域福祉の仕組みづくりと推進	施策責任者	福祉部長 嶋田 雅文
目指す姿	地域が抱える課題を、みんなで解決できる仕組みをつくり、安心して暮らせるまちを目指します。			
関係課	社会福祉課	個別計画	地域福祉計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	7.7	26/40位	30.6	13/40位	●令和4年度の市民意識調査では、地域活動のボランティアに参加したことがある人は、39.6%ありますが、教育・文化・スポーツ関係、福祉関係、防災関係のボランティア活動に参加するつもりがない人がそれぞれ40%以上あります。 ●「地域医療体制・医療サービスの充実」や「高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進」などの医療や高齢者福祉に関する項目が重要度の上位をしています。
R 3	6.6	28/40位	31.5	15/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	民生委員児童委員1人当たりの平均年間活動日数	日	実績	101	101	79	79	79	140	岩出市 令和2年度 41.0日 令和3年度 50.4日 令和4年度 43.2日
			達成率 (%)	72.1	72.1	56.4	56.4	56.4		
②	福祉ボランティアの登録人数	人	実績	780	820	801	748	711	860	岩出市 令和2年度 282人 令和3年度 226人 令和4年度 236人
			達成率 (%)	90.6	95.3	93.1	86.9	82.6		
③	ボランティア活動に参加している市民の割合	%	実績	15.2	15.8	15.7	14.3	15.5	30	
			達成率 (%)	50.6	52.6	52.3	47.6	51.6		
④	民生委員児童委員の定数に対する充足率	%	実績	100	100	100	100	100	100	全国 令和元年度（一斉改選） 95.2% 令和2年度 96.2% 令和4年度（一斉改選） 93.7%
			達成率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
⑤	民生委員児童委員定例会・研修会の開催回数	回	実績	56	56	37	36	59	60	
			達成率 (%)	93.3	93.3	61.6	60.0	98.3		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①民生委員児童委員からの活動報告書に基づいた日数。実績は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度以降横ばいですが、相談、支援内容は複雑、多様化しています。
②ボランティア連絡協議会会員数。登録人数は減少傾向であり、複数の団体に所属する市民が多く、固定化が課題となっています。
③市民意識調査において、地域活動、教育・文化・スポーツ関係、福祉関係、防災関係、それぞれのボランティア活動に、参加したことのある市民の割合を平均した数値。地域活動への参加は39.6%とありますが、福祉関係、防災関係への参加は6.6%以下と少なく、また参加するつもりがないと回答した方も46.3%以上あります。
④民生委員児童委員の一斉改選の年であり、なり手不足により後任者が決まりにくい地区もあったが、欠員は生じませんでした。
⑤新型コロナウイルス感染症の感染者数を鑑みながら、定例会や研修等を実施したため開催回数が増加しました。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●地域共生社会の実現のための社会福祉法の一部を改正する法律が、令和2年6月12日に公布され、既存の相談支援等の取組を活かしつつ、地域住民の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築のための積極的な施策の実施が謳われています。
●少子高齢化、核家族化などにより、人と人とのつながりが希薄化しており、隣近所や地域内での支え合いの機能が弱まっているのが現状ですが、地域における多世代の交流や住民同士の支え合いが、改めて叫ばれています。
●8050問題など一つの世帯に複数の課題が存在している状態やごみ屋敷など世帯全体が孤立している状態であり、単独の担当課だけでは支援することができない課題が絡みあい、地域の福祉ニーズが複雑、多様化しています。
●複雑化・多様化した課題を解決するため、相談機能やコーディネーター機能を担う組織を、社会福祉協議会に委託するための協議をしています。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎地域で暮らす人々がともに支え合える地域づくりを進める必要があります。
◎世代を問わず、誰もが気軽に参加できる地域福祉活動の仕組みづくりが必要です。
◎民生委員児童委員、ボランティアなどの地域福祉を支える担い手や中心的役割を担うリーダーの育成が必要です。
◎多様化・複雑化する生活課題や福祉ニーズに対応できる相談体制の充実を図るため、専門的人材の確保と育成が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	地域におけるつながり、交流の推進	●民生委員児童委員、福祉委員が挨拶や声かけに努め、子どもの安全、高齢者の安否確認などの見守り活動を推進しました。 ●地域に根ざした地域福祉の実践を進め、地域全体をネットワーク化する活動を行う社会福祉協議会の運営補助を行いました。	普通	●紀の川てくてく体操、自主防災組織、子育てサークルなど既存の地域活動に、地域住民だれもが参加することができるよう、重層的な支援体制の構築について庁内で協議を行います。 ●専門職による伴走型支援と地域の居場所などにおける様々な活動を通じて、日常の暮らしの中で行われる地域住民同士の支え合いや見守りといった双方の視点からセーフティネットを強化します。
	社会福祉課			
②	地域福祉を担い、支える人材の育成	●各地域で活動されている民生委員児童委員、赤十字奉仕団、ボランティア連絡協議会への活動補助を行いました。 ●民生委員児童委員に対し、地域福祉に関わる公的制度について研修を開催しました。	普通	●町内会や民生委員児童委員、各種団体が行っている活動を再評価し、住民同士が応援し合う関係性の構築について、福祉部内だけでなく、庁内各部署で協議します。 ●個人としての民生委員児童委員を、組織として単位民生委員児童委員協議会が支え、さらに単位民生委員児童委員協議会が関係機関、団体と連携、協働できる体制づくりを強化するため、協議会の活動を支援します。 ●社会福祉協議会が行うボランティア養成事業を支援し、ボランティアの養成を強化します。
	社会福祉課			
③	相談支援体制の整備と充実	●生活困窮者自立相談支援事業を社会福祉協議会へ委託することで、福祉の総合相談窓口の一つとしての機能を担っています。	普通	●福祉の総合相談窓口として社会福祉協議会が、障害児者、高齢者に関わらず地域住民の相談や支援を行えるよう、福祉部はじめ庁内各部署との協議を深めます。 ●地域住民の複雑化、複合化した生活課題や支援ニーズに対応することができる断らない相談支援体制、包括的な支援体制を構築します。 ●市民へ相談窓口や事業の周知を図ります。
	社会福祉課			
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

◎令和5年3月に第3次紀の川市地域福祉計画を策定しました。

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●紀の川市の地域性を活かした地域共生社会（制度・分野の枠や、「支える側」「受け手側」という従来を超えて、人と人、人と社会が繋がり、市民一人一人が生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていける事のできる社会）の構築に向け、市役所各部署だけでなく多機関協働で協議、実践を重ねていきます。
●市民ボランティアを養成、強化するとともに、町内会、民生委員児童委員、自主防災組織、てくてく体操など地域における既存の活動を再評価し、誰一人として孤立しない地域づくりができる事業を展開します。
●社会福祉法に規定された地域福祉のリーダー的存在であり、地域ネットワークを持っている社会福祉協議会が、地域共生社会構築のコーディネーター的役割を担えるよう協働して取り組みます。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	●地域の助け合いにより、様々な福祉の課題を明らかにし解決に向けた取組を進め、地域共生社会の実現を図るため、市民・地域・行政が協働して取り組むべき方策を定め、第3次紀の川市地域福祉計画を策定しました。 ●少子高齢化、核家族化等により人と人との繋がりが希薄化している中で、既存の地域活動を継続し続け、民生委員児童委員への研修を実施することで地域福祉を担い支える人材育成に取り組んでいます。 ●多様化・複雑化する生活課題や福祉ニーズに対応できる相談体制への取組を進めています。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-3-2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進	施策責任者	福祉部長 嶋田 雅文
目指す姿	高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らすことができるまちを目指します。			
関係課	高齢介護課、地域包括支援センター	個別計画	介護保険事業計画及び高齢者福祉計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	23. 6	4/40位	29. 4	14/40位	●高齢者施策については多くの市民が非常に重要視していることがうかがえます。しかし、満足の度合は令和3年度より大きく順位を下げています。不満に思っている人の割合が令和3年度の9.5%から15.6%となっており、ニーズに添ったきめ細やかな施策の展開と内容の充実が求められています。 ●令和4年12月実施の高齢者実態調査では、今後拡充が必要な施策として「介護している家族等の支援」、「移動手段の充実」、「在宅サービスの充実」の順で重要となっており、在宅で介護されている人に限っては、「介護している家族等の支援」「認知症対策の充実」、「身近で通いや泊まりなどのサービスが受けられる事業所等の充実」と「移動手段の充実」の順となっています。
R 3	26. 5	4/40位	38. 2	7/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	紀の川てくてく体操の活動拠点数	拠点	実績	74	86	91	93	91	75	
			達成率 (%)	98. 6	114. 6	121. 3	124. 0	121. 3		
②	地域自主運動サークルの活動拠点数	拠点	実績	27	29	29	29	32	30	
			達成率 (%)	90. 0	96. 6	96. 6	96. 6	106. 6		
③	認知症サポーター数	人	実績	2, 922	3, 897	4, 052	4, 669	5, 497	2330	橋本市 8, 283 人（R5 . 3末）
			達成率 (%)	125. 4	167. 2	173. 9	200. 3	235. 9		
④	介護認定を受けている人の割合	%	実績	23	22. 2	22	21. 9	21. 7	現状値未満	県全体値 21. 9%（R5 . 3末）
			達成率 (%)							
⑤	総合事業のサービスA（緩和型）事業所数	箇所	実績	30	32	29	29	31	45	
			達成率 (%)	66. 6	71. 1	64. 4	64. 4	68. 8		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①紀の川てくてく体操の拠点は令和3年度から2拠点減少し91拠点となりました。新型コロナウイルス感染症防止による活動中止期間が長期化したことで2拠点が活動再開に至りませんでした。
②地域自主運動サークルの数は令和3年度から3サークル増加しました。新規立上げが2件、従来のサークルから分離したものが1件となっています。
③認知症サポーター登録者数は令和4年3月末から令和5年3月末の1年間で828人（内訳：中学生404人、一般424人）増加しました。コロナ禍においても感染対策を行い、幅広い年代の方に受講いただきました。
④令和4年3月末時点では紀の川市の認定率は21.9%で県内11番目の高さでしたが、令和5年3月末時点では紀の川市の認定率は21.7%で県内12番目の高さとなっており、認定率は徐々に低下して県全体値の21.9%より低くなりました。
⑤平成29年度から開始した総合事業ですが、介護サービス事業所の人手不足と団塊の世代が75歳以上となり多くの人が介護が必要となる2025年を見据え、非専門職でサービス提供できる緩和型の事業所を令和5年4月現在56箇所ある市内の介護サービス事業所の訪問サービス及び通所サービス（地域密着を含む）と同程度に増やしていく必要があります。
①②④紀の川てくてく体操や自主運動サークルのような通いの場で介護予防を実践する人々が増えるにつれ、それに比例して要介護認定率が下がっており、介護予防の成果が表れていると考えられます。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●全国的に高齢化が進行し、65歳以上人口の割合は総務省統計局の人口推計令和5年4月確定値で29.1%となっています。本市においても同様の傾向であり、65歳以上人口の割合は、33.6%（令和5年3月時点）と全国値を上回っており、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本市の高齢者人口は今後も増加し、令和7年頃にはピークに達し、その後緩やかに減少していくと見られるものの、全国的には2040（令和22）年頃には団塊の世代ジュニアが65歳以上となり高齢者人口がピークを迎え、現役世代（担い手）が大きく不足するという2040年問題に直面し、本市においても現役世代（担い手）と高齢者の割合がほぼ同じになり、介護サービスをはじめとする高齢者福祉のニーズも一層増加することが予想されます。
●「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」によると認知症高齢者の数は、令和7年には全国で約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると見込まれており、認知症は誰もがなりうる可能性のある身近な病気となっています。令和5年6月には「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が公布され、国や地方公共団体は認知症施策を総合的かつ計画的に策定・実施することが責務となり、国民の責務として、認知症に関する正しい知識及び認知症の人に関する正しい理解を深め、共生社会の実現に寄与するよう努めなければならないとされました。今後、法に基づき必要な施策を講じ共生社会の実現を推進していく取組が必要です。
●令和4年実施の生活機能チェック調査の結果からコロナ禍である令和2年と令和4年の2年間の調査では、コロナ禍前である平成28年と平成30年の2年間の調査と比べて健康高齢者からフレイルへ移行した人の割合が5%高くなっており、コロナフレイルの影響が示唆されます。
●厚生労働省は令和7年までに住民主体の通いの場に参加する高齢者の割合を8%とすることを目指し、取組を推進することが望ましいとしています。本市においては令和5年3月時点で約6%となっています。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎高齢者の社会参加意識の向上と健康づくり対策をはじめとした自発的な介護予防活動の取組が求められています。
◎認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように、地域の状況に応じた施策を展開し、認知症に対する正しい知識及び正しい理解を深め、早期発見・早期対応に向けた取組を進めていくことが必要です。
◎介護サービスが必要な人へ必要な分だけ適正に提供される健全な介護保険制度の運営が求められています。
◎重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるような体制づくりが必要です。
●新型コロナウイルス感染症による生活不活発に起因するフレイルの進行について対策を講じていく必要があります。
●高齢者にとってやりがいや生きがいを見つけ、社会活動に参加することは、幸福で健康な日々の生活の維持にもつながるため、就労及びボランティア活動等の機会の確保や充実が必要です。
●デジタル社会が進行する中で、高齢者のデジタルデバイドが懸念されており、高齢者が取り残されないような支援が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進	●フレイルチェック事業において、市民ボランティアの「フレイルサポーター」を養成し、新たなコミュニティ組織を創設しました。 ●フレイルサポーターに見守り活動等の福祉活動を行う「地域見守り協力員」を依頼し、ボランティア活動の促進を図っています。 ●一般公募により、フレイルサポーター以外の「地域見守り協力員」の増員を図りました。 ●NPO法人フレイルサポート紀の川と高齢者のサポートに関して市と協働で取り組むための包括連携協定を締結しました。 ●元気高齢者の就労やボランティア活動の機会確保に取り組む就労的活動支援コーディネーターを配置し、市内の介護事業所に対し雇用の意向確認を行いました。	普通	●高齢者が住み慣れた地域で生きがいのある生活が続けられるよう、ボランティア活動や世代間交流などのさまざまな機会を活用した社会参加の促進や、学習・文化・スポーツ等へ参加しやすい環境づくりを推進します。 ●就労的活動支援コーディネーターによる就労希望の高齢者と受入可能な介護事業所とのマッチングを行い就労機会の提供及び介護人材の確保を図ります。 ●「市民による 市民のための フレイルチェック」を合言葉に、引き続き新たなフレイルサポーターを養成するための講座を開催していきます。 ●フレイル予防アプリを利用して介護予防活動や介護ボランティアに参加した人にポイントを付与することで社会参加の動機付けを行います。
②	高齢者の自立支援	●高齢者が在宅で安心して生活できるよう各種の高齢者福祉事業を実施するとともに、平成29年4月からは地域支援事業の一つである「総合事業」を開始し、市独自施策に加え、民間により提供される生活支援サービス等を活用し高齢者の生活支援を展開しています。 ●地域の支援ニーズと多様な提供主体による活動のマッチング等を行う生活支援コーディネーターを配置し、社会福祉協議会と連携して、紀の川てくてく体操の拠点、サロン及び山間部の過疎地域等において、日常生活上の困りごとを尋ねる生活支援アンケートを実施し、課題把握を行うとともに、地域資源の調査を行っています。 ●移動販売事業者1社と包括連携協定を締結し、移動販売車による移動カフェを通いの場等に派遣して見守りや買い物支援を行っています。 ●ひとり暮らしの高齢者の不安を解消し、離れて暮らす家族が安心して生活を送れるよう、自宅に通信機能付き電球を設置する事業を開始しました。	高い	●地域に不足している生活支援サービスの創出や担い手の養成などの資源開発や関係者間の情報共有、連携体制の構築などを行う生活支援コーディネーターを引き続き配置することにより、地域の支援ニーズと多様なサービス提供主体による活動のマッチング等を図ります。 ●高齢者が安心して在宅生活を送れるよう、近隣の人が互いに声を掛け合い見守りを行う体制づくりに取り組めます。 ●移動販売事業者と連携し、山間部や過疎地域での買い物支援及び見守りや閉じこもり防止に資する事業を展開します。 ●要介護高齢者等の移動手段を確保するため福祉有償運送の立上げに取り組めます。 ●高齢者のデジタルデバйд対策の一環として、元気プラス塾のメニューにスマートフォン教室を組み入れ、初心者に操作方法の講習を行います。
③	介護保険サービスの適切な運営と充実	●介護サービスの質の向上を図るため、所管する事業者への適切な助言・指導を行いました。 ●重度の要介護者、ひとり暮らしや夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者の増加等を踏まえ、高齢者や家族が安心して介護保険をはじめとする各種サービスを利用できるように、サービスの充実を図ってきました。 ●家族等への介護支援を強化するべく任意事業において、家族介護者交流事業の開催や家族介護慰労事業及び高齢者紙おむつ助成事業等の支援策を講じてきました。 ●総合事業において、積極的に自立支援に取り組む事業所を認定し、適正な評価と成果に応じたインセンティブを付与する仕組みを構築しました。 ●コロナ禍を機に介護認定審査会のWe b開催とペーパーレス化を実施するとともに、定員の削減を図りました。 ●人材育成に取組み、専門職のスキルアップや連携強化を図りました。	普通	●介護サービスの質の向上を図るため、利用者からの苦情や相談に迅速に対応するとともに、介護サービス事業者に対し適正な運営とサービスの質の確保に向けた助言・指導に引き続き努めます。 ●積極的に自立支援に取り組む事業所を認定し、適正な評価と成果に応じたインセンティブを付与するとともに、総合事業におけるサービス事業の適正化に引き続き取り組みます。 ●第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）において地域支援事業の補助対象から除外される紙おむつ助成事業について、費用の全額を第1号保険料を財源とする保健福祉事業への移行を検討します。 ●上服額の繰り上げによる地域支援事業の更なる充実のため、地域包括支援センター正職員の人件費について介護特会から一般会計への振り替えを検討します。 ●人材不足が深刻な介護現場の業務効率化（ICT化）による情報共有体制の構築と災害時等の行政との円滑な情報連絡手段の獲得を目的にLINE-WORKSを利用した介護医療関係者同士のネットワークの形成を目指すします。 ●介護認定審査会のシステム化による調査業務の効率化を図り、認定申請増加への対応と調査の平準化及びペーパーレス化に取り組めます。
④	介護予防と健康づくりの推進	●一般介護予防事業については、運動器機能向上教室・口腔機能向上教室・低炭素養育防教室・訪問型講座等の開催や地域自主運動サークルの活動支援に加え、自立支援型プログラムとして「紀の川てくてく体操」を新設して、理学療法士等のリハビリ専門職と協同で効果的な介護予防の取組を拡充してきてきました。 ●高齢者に通いの場を提供するため、介護予防教室「いきいき元気塾ながり」「いきいき元気塾こかわ」「はつらつくらぶ」、「しききと教室」及びついで場事業「わがらカフェ」、「カフェはほえみの和」、「カフェはほえみの和竜門ですよ」、「いこいカフェ」を実施し、介護予防の普及啓発に努めてきました。 ●那賀歯科医師会の協力医院と連携し、地域の体操拠点等でオーラルフレイルチェックを実施した結果から必要に応じて受診勧奨することで、個々が協力医院を受診する仕組みを構築しました。	高い	●健康チェックイベント等において、NPOによるフレイルチェック及び専門職による健康相談を実施することで、フレイル予防の周知を図るとともに、今後も高齢者が主体的にフレイル予防の取組を継続できるように体操拠点整備と活動を支援していきます。 ●地域リハビリテーション活動支援事業の継続上、必要な理学療法士等の専門職の確保に努めます。 ●新たなメディアを通じて新型コロナウイルス感染症予防対策として自宅できるフレイル予防活動の普及に努めます。 ●NPO法人フレイルサポート紀の川と協働でフレイル予防の重要性を周知していきます。 ●フレイル予防及びDX化推進のため、自身の健康チェックやフレイル状態の分析が行え、運動継続者へのインセンティブとしてポイント付与機能や抽選機能を備えたアプリの開発に取り組めます。 ●保険者機能強化推進交付金を財源として一般会計へ繰り出して実施している介護予防事業について、第9期から介護特会の地域支援事業に組み替えて実施します。
⑤	地域包括ケアシステムの構築	●新型コロナウイルス感染症対策によりWe b研修を導入し、地域ケア会議や自立支援・重度化防止意識改革推進事業の研修を開催しました。多数の多職種専門職や民生委員の参加を得て、地域課題や事例検討等について話し合い学ぶ機会となりました。 ●医療と介護の連携推進事業（岩出市と合同）を在宅医療サポートセンターに事業委託し、広域的に多職種連携の事業を行いました。 ●切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制を構築するために、在宅医療サポートセンターを岩出市と共同で那賀病院内に設置しました。	高い	●地域のネットワーク構築に取組み、地域ケア会議等をWe bや参集型で開催し、地域課題について学び事例検討等を通じて話し合い発信する場とします。専門職のスキルアップを図る場として、個別地域ケア会議を活用します。 ●認知症や虐待など地域の課題を持つ高齢者の対応を集約し効率的に対応する為、システム導入により地域包括ケアシステムの深化に活用します。 ●医療と介護の連携推進事業の実施継続のため、在宅医療サポートセンターに事業委託を継続します。 ●生活支援コーディネーターとの協力体制を構築し、地域住民を含めたケアシステムを推進します。 ●NPO法人フレイルサポート紀の川及び移動販売事業者と連携し、地域の実情に応じた簡易な生活支援サービスの提供体制を構築します。
⑥	認知症対策の充実	●認知症の対応件数は年々増加しており様々な相談・支援を専門職で実施しました。 ●令和4年度から9月のアルツハイマー月間に、「オレンジゲデニングプロジェクト」を実施し啓発活動を行いました。 ●認知症本人と家族の方との交流の場として「紀の川おれんじ広場」を開催しました。 ●認知症サポーター養成講座を実施し、サポーターの育成に取り組めました。また、サポーターのステップアップ研修を行い地域での見守り活動を行うチームオレンジ設置の支援を行いました。認知症初期集中支援チーム活動による支援や事業についての検討委員会も実施しました。 ●徘徊の可能性がある高齢者について、GPS端末機の貸与や個人情報の手前登録・協力機関への情報提供のネットワーク化を図り、登録者の衣類や持ち物に貼付し、スマートフォンで読み取る都市と警察の連絡先を表示する二次元コードシールを配付しています。 ●認知症になっても安心して暮らしていけるよう本人やその家族を支援するため、認知症高齢者等個人賠償責任保険制度を創設しました。	高い	●高齢者や認知症の人が増加するなかで団塊の世代が75歳を迎え後援高齢者が急増し、地域包括支援センターの役割は重要になります。専門職を配置し相談窓口の啓発を行い、高齢者や認知症本人・家族の支援を行います。認知症に対する理解を深めるため、アルツハイマー月間の「オレンジゲデニングプロジェクト」等の事業を継続実施し正しい知識の普及・啓発に努めます。 ●認知症サポーター養成講座の開催を、中学校での講座開催に積極的に取り組み、次世代を担うサポーターを養成します。受講済の事業所等に「認知症サポーターがいます」ステッカーを配布し認知症の方に安心して利用してもらえるように掲示を依頼します。また、ステップアップ研修を実施して、チームオレンジなどの地域での見守り活動を継続支援し、認知症に関する施策検討委員会・初期集中支援チーム等の活動に取り組めます。 ●社会福祉協議会と協力し、傾聴ボランティアの育成・活動を支援します。 ●第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）においてグループホーム2ユニット（定員18名）の整備を検討します。 ●第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）において、地域支援事業による低所得のグループホーム入居者の家賃等の助成事業の実施を検討します。

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

●高齢者の尊厳への配慮と安全・安心な生活環境の確保 ・成年後見制度の普及・促進や消費者被害防止施策等の権利擁護の取組を推進するため、令和4年度に市長申立を含めた成年後見制度の利用支援事業を市社会福祉協議会へ委託し権利擁護センターを設置しました。 ・高齢者虐待防止に向けた取組を推進するために虐待防止ネットワークの構築を目指します。 ・居宅介護支援事業所に個別避難計画の作成の一部委託することによって策定の進捗を図ります。 ●地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制の構築 ・複数分野の課題を抱え、複合的な支援を必要とするケースにおいて、福祉部内で横の連携を持ち、世帯・地域が抱える課題に包括的に対応していくための担当者会議を随時開催します。 ●高齢者福祉施設については、自主的な介護予防の実践の場として利用できるよう適切に管理運営を行っていきます。
--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●高齢者が健康でいきいきと暮らしていくことができるよう、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進します。 ●認知症の人が増加している現状等に適切に対応するため、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」による施策を展開し、共生社会の実現に寄与するよう努めます。 ●地域包括ケアシステムの深化・推進にあたり、地域包括支援センター機能の充実・強化を図り多職種連携を強化するとともに、多職種連携による地域包括支援ネットワーク構築に取組み高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう取り組みます。 ●多岐にわたる生活課題を抱える人に対し、ワンストップで総合的に相談を受ける総合相談窓口の設置に取り組めます。 ●デジタル社会が進行する中で、情報の受け手としての高齢者が置き去りにされないように、また、日常生活での利便性が向上するように支援します。 ●第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画に基づいた施策の展開と進捗管理を行います。
--

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
高い	●民間事業者やNPO法人と包括連携協定を締結し、多様なサービス提供主体による生活支援体制や見守り体制が構築されつつあります。 ●紀の川（てくてく）体操と地域自主運動サークルの活動拠点数は令和5年3月末で123箇所となり、目標値を大幅に上回るペースで増加しており、高齢者の社会参加意識の向上と健康づくり対策をはじめとした自発的な介護予防活動の取組は着実に進んでいます。 ●医療と介護の両方必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる体制づくりのため岩出市と合同で在宅医療サポートセンターを設置し、在宅医療・介護連携推進事業を委託して実施するとともに、生活支援体制の整備など地域包括ケアシステムの深化に取り組んでいます。 ●認知症の早期発見・早期対応に向けた支援体制を構築するべく地域包括支援センターにおいて「認知症初期集中支援チーム」の設置、認知症地域支援推進員、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の専門職を配置して相談窓口の強化を図っています。 ●住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう認知症の人やその家族を支援するため、認知症高齢者等個人賠償責任保険制度を創設しました。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-3-3 障害者の自立支援	施策責任者	福祉部長 嶋田 雅文
目指す姿	障害があっても住み慣れた地域で心豊かに暮らせるまちを目指します。		
関係課	障害福祉課	個別計画	障害者基本計画、障害福祉計画、障害児福祉計画、地域福祉計画

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	8.8	21/40位	18.0	25/40位	●令和4年度に実施した市民意識調査では、障害者の自立支援の取組について、「わからない」と回答した者の割合が36.4%でした。 ●平成28年度に実施した障害者基本計画策定に係るアンケート調査では、災害が起こった際の不安について、「避難先での生活の不安」が46.3%、「体調に対する不安」が38.9%、「避難する際の移動の不安」が37.2%でした。
R 3	8.2	24/40位	16.1	25/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	成年後見制度利用者数	人	実績	60	63	69	66	68	80	岩出市 (R4)160人
			達成率 (%)	75.0	78.7	86.2	82.5	85.0		
②	障害福祉サービス支給決定者数	人	実績	510	544	554	565	600	610	岩出市 (R4)487人
			達成率 (%)	83.6	89.1	90.8	92.6	98.3		
③	就労移行支援事業の利用者数	人	実績	23	17	17	14	18	28	岩出市 (R4)8人
			達成率 (%)	82.1	60.7	60.7	50.0	64.2		
④	グループホームの定員数	人	実績	42	53	63	88	107	50	岩出市 (R4)30人
			達成率 (%)	84.0	106.0	126.0	176.0	214.0		
⑤	指定特定相談支援事業所数	箇所	実績	10	10	10	9	7	11	岩出市 (R4)6箇所
			達成率 (%)	90.9	90.9	90.9	81.8	63.6		

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①成年後見制度に関する相談は増加傾向にありますが、成年後見制度利用者数はほぼ横ばい状態となっています。
②障害福祉サービスの利用を希望する人は年々増加しています。
③令和元年度に1か所の就労移行支援事業所が廃止となったため利用者数が減少し、以降は横ばいとなっていました。令和4年度の利用者数はわずかに増加しています。
④グループホームの定員数は年々増加しています。地域での生活を支援する上でグループホームの役割は重要であり、今後も需要は増加することが見込まれます。
⑤指定特定相談支援事業所数は事業所の移転や廃止により減少傾向となっていますが、年々増加する障害福祉サービス利用希望者への適切な対応を図る上で、相談支援体制の充実・強化が課題となっています。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●成年後見制度の利用の促進に関する法律（平成28年法律第29号）の施行に伴い、国による成年後見制度利用促進基本計画が策定されました。市町村においても成年後見制度の利用促進に向けた取組が重要となっています。
●本市の身体障害者手帳の所持者数は減少傾向にありますが、療育手帳と精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向にあります。
●障害のある人が自らの意思決定により希望する地域生活を営むことができるよう、「生活」と「就労」に対する支援の一層の充実が求められています。
●障害のある人の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、入所や入院からの地域移行を進めるための地域生活支援拠点などの整備をより一層進めることが重要となってきています。
●障害や介護、子育てなどの属性別の支援方法では対応困難な複雑化、複合化した相談内容に対応できるよう、包括的な相談支援体制のさらなる充実・強化が求められています。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎障害のある人に対する市民の理解を促進するための啓発に取り組む必要があります。
●障害のある人の権利や尊厳が脅かされることを防ぐことが必要です。
◎障害のある人の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、入所や入院からの地域移行を進める必要があります。
◎複雑化・複合化している相談内容に対応できるよう相談支援専門員などの相談支援業務に携わる専門人材の確保、育成が必要です。
●災害時などにおいても障害のある人の安全・安心が確保される体制を整備する必要があります。
◎一般企業などにおける障害者雇用に対する意識啓発と雇用の定着、工賃、給料水準の向上が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	理解と支え合う体制づくり	●紀の川市広げようこころの輪手話言語条例（平成30年条例第1号）を制定し、手話に対する理解を促進する施策や手話を使いやすい環境づくりを推進しています。 ●成年後見制度の利用促進を図るため、相談の中核的機関である権利擁護センター（紀の川市社会福祉協議会に設置）に紀の川市成年後見制度利用支援事業を委託しています。 ●障害者虐待防止センターを設置するとともに、障害者虐待に関する講演会や研修会を開催しています。	普通	●障害を理由とした差別の禁止と虐待防止に向けた取組を充実し、市民への啓発に努めます。 ●障害のある人への理解の促進を図るため、那賀圏域障害児者自立支援協議会を中心に関係機関などと連携し、市民への啓発に努めます。 ●障害のある人の権利を守るため、権利擁護制度の周知と理解の促進を図り、成年後見制度の利用につなげます。 ●障害のある人やその家族の自発的な活動や啓発活動への支援を行います。
	障害福祉課			
②	地域で自立した生活を送るための支援	●相談支援事業所や障害福祉サービス事業所などの支援員の人材育成を図るため、那賀圏域障害児・者自立支援協議会に人材育成部会を設置し、研修会の開催や情報の共有化を図っています。 ●常時医療的ケアが必要な障害のある児童が、地域で安心して日常生活を送れるよう、サービスの質の確保と充実に関する情報の共有化を図ることを目的とした、医療的ケア児支援連携会議を設置しています。 ●障害のある人やその家族が地域で安心して社会生活を送れるよう、地域生活支援拠点などの体制を整備しています。	普通	●複雑化・複合化している相談内容に対応できる相談支援体制の充実を図ります。 ●入所や入院からの地域移行を進めるため、在宅での障害福祉サービスの充実や地域生活支援拠点などの整備・充実を図ります。 ●障害のある子供やその家族に対する相談支援体制や療育支援体制の充実を図ります。
	障害福祉課			
③	障害者の就労支援	●障害者就労・生活支援センターが拠点となり、障害のある人の身近な地域において就労面及び生活面における一体的な支援を行っています。 ●福祉的就労として就労継続支援などの訓練給付を行っています。 ●障害者優先調達推進法に基づき、市指定ゴミ袋の一部を就労継続支援事業所に発注しています。	普通	●障害者雇用の一層の推進のため、就労移行支援や就労定着支援体制の充実を図り、福祉的就労から一般就労への移行を推進します。 ●「障害者優先調達推進法」に基づき、就労者の工賃、給料向上に向けた取組を促進します。
	障害福祉課			
④	安全・安心が確保される体制の整備	●那賀圏域障害児・者自立支援協議会防災部会において、障害福祉サービス事業所の防災マニュアルの作成と避難訓練の実施を働きかけ、支援を行っています。 ●災害時要援護者避難支援システムを構築しています。	普通	●避難行動要支援者の個別避難計画作成を行い、適切な避難支援や安否確認を行うことができる体制を整備します。 ●障害のある人やその家族の防犯・防災対策の啓発活動に取り組むとともに、障害福祉サービス事業所などの防災対策を推進します。 ●公共施設・公共交通機関のバリアフリー化や心のバリアフリー化を促進します。
	障害福祉課			
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

●障害のある人への支援体制の整備を図るため、岩出市と共同で那賀圏域障害児・者自立支援協議会を設置しています。
--

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●障害のある人への理解の促進を図るため、那賀圏域障害児・者自立支援協議会を中心に関係機関などと連携し、市民への啓発に努めます。 ●紀の川市成年後見制度利用支援事業の委託業務の進捗状況について把握し、成年後見制度の利用促進と円滑な制度運用について推進していきます。 ●複雑化・複合化している相談内容に対応できるよう、基幹相談支援センターの機能強化や相談支援専門員などの人材育成を推進し、相談支援体制の充実を図ります。 ●自然災害などに対応するため、優先度の高い避難行動要支援者から災害時の個別避難計画作成を行い、適切な避難支援や安否確認を行うことができる体制を整備します。
--

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	障害のある人を地域で支えるための障害福祉サービスは概ね提供できていますが、申請者数やサービス支給量は年々増加しているため、支給決定にかかる事務の効率化や人員の確保が課題となっています。また、少子高齢化や高度情報化に加え、自然災害の多発など、障害のある人やその家族を取り巻く環境は大きく変化し、個々の抱える課題も多種多様化してきています。障害のある人やその家族が安心して地域で生活できるような支援体制づくりが重要であり、特に相談支援専門員の人材育成と人材確保のための取組を推進する必要があります。また、災害時の避難行動要支援者の個別避難計画作成についても、計画的に取り組む必要があります。

施策評価シート（令和 4年度成果）

1. 施策の概要

基本施策名	1-3-4	生活に困窮している方への支援	施策責任者	福祉部長 嶋田 雅文
目指す姿	生活に困窮したときに、必要な支援を適切に受けることができ、自立した生活を送ることができるまちを目指します。			
関係課	社会福祉課	個別計画	地域福祉計画	

2. 市民意識調査の結果

年度	重要度	重要度順	満足度	満足度順	市民意識の傾向（市民ニーズの分析）
R 4	7.9	24/40位	11.7	29/40位	●令和4年度の市民意識調査において、これまでの取組に対する満足度の質問では、「生活に困窮している方への支援」について「わからない」と回答された人の割合が3番目に高く、制度や施策についての周知が不足している現状です。 ●上記質問において「わからない」と回答した第2位は「障害者の自立支援」であり、市民は、自らの生活に関連のある項目には関心があるが、生活困窮者や障害者については関心が低いことがわかります。市民一人一人が他人事ではなく、“我が事”として捉える地域共生社会実現に向けて普及啓発を進めていかなければなりません。
R 3	9.2	21/40位	8.4	31/40位	

3. 成果指標の状況

No.	指標名	単位		H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 4 (目標値)	ベンチマーク
①	生活保護率	‰	実績 達成率 (%)	6.61	6.87	6.99	6.92	7.05	6.15以下	県平均 令和2年度 15.89‰ 令和3年度 15.86‰ 令和4年度 15.76‰
②	生活困窮者相談件数	件	実績 達成率 (%)	8	10	218	195	120	40	
③	自立世帯件数	件	実績 達成率 (%)	4	2	1	2	2	10	
④	世帯主の就労率	%	実績 達成率 (%)	8.6	9	9.5	11.5	8.6	10	県平均 令和元年度 11.7% 令和2年度 11.6% 令和3年度 11.5%
⑤	保護申請件数	件	実績 達成率 (%)	67	50	59	50	64	65	

4. 成果指標の分析（成果指標のNo.と対応）

①手持ち金の減少等の理由により保護開始が廃止を上回り令和3年度と比べ1.02倍と微増となっています。
②生活困窮者の相談が新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度、令和3年度は大幅に増加していたが、令和4年度は減少に転じ120件となりました。主な相談内容は生活福祉資金貸付に関することで86件でした。
③支援プランを作成し、相談者の積極的な活動を支援し自立につながった世帯は、2世帯2人でした。
④傷病などで就労継続が困難な世帯が、令和3年度より令和4年度は増加したため、就労率が減少しています。
⑤手持ち金の減少等の理由により、令和3年度より令和4年度は増加しています。

5. 施策の現状（社会情勢の変化、国・県の制度変更、他市町村の動向等）

●平成27年に生活困窮者自立支援法が施行され、生活に困窮する人や世帯に対する重層的なセーフティネットの構築が進められています。
●和歌山県ではバブル崩壊後、平成9年度の被保護人員7,684人、保護率7.11‰を境に増加傾向に転じ、特に平成20年のリーマンショック後は急激な伸びをみせましたが、徐々にその伸びはゆるやかになり、令和3年度では、被保護人員12,184人、保護率15.86‰、令和4年度では、被保護人員14,393人、保護率15.76‰となっています。
●紀の川市の生活保護率は、令和4年度において7.05‰となっており、令和3年度より微増となっています。被保護者の約7割が高齢者世帯であり、保護の脱却が難しい状況が予想されます。今後、一層の高齢化により、被保護者の増加が見込まれます。

6. 施策における課題（長期総合計画で掲げた課題は◎、それ以外は●）

◎生活困窮者の状況の深刻化を防ぐため、対象者を早期に把握できる仕組みが必要です。
◎多様化・複雑化する生活課題にも適切に対応できるよう相談・支援体制の強化が必要です。

7. 取組の状況と今後の方向性

No.	取組方針（担当課）	これまでの取組・成果	進捗度	今後の取組の方向性（新規・拡充がある場合はその内容）
①	生活困窮者自立の推進	●地域の民生委員児童委員との連携や庁内各部署との情報連携を強化し、生活困窮者の早期把握に努めました。 ●専門性を持った人材を活用し、業務を効率よく遂行することで、生活保護費の抑制につなげました。 ●窓口相談のほとんどが生活保護申請となっていました が、他法他施策の情報提供とともに、生活困窮者自立相談支援事業の支援プランを作成し、支援につなげました。	普通	●社会福祉協議会や和歌山公共職業安定所など関係機関との連携を強化し、社会福祉協議会に生活困窮者自立支援法に基づく業務を委託して、生活困窮者に対して継続的な伴走支援を実施します。 ●総合相談窓口の設置に向け協議を重ね、設置後は市民に周知徹底し、相談しやすい環境をつくります。 ●生活保護システムの国標準準拠システム対応に向け準備を進めて行きます。
	社会福祉課			
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

8. その他の取組（上記の取組方針以外の取組状況）

●生活困窮者自立相談支援事業を社会福祉協議会と連携し支援を行いました。 ●新型コロナウイルス感染症の影響による支援として、令和4年度住民税均等割が非課税世帯又令和4年1月以降の収入が減少し住民税非課税相当の収入になった家計急変世帯に対し、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金（5万円/1世帯）6,509件の給付をしました。

9. 施策の方針（取組の優先順位や、重点化・見直しを図るもの等、施策の方向性）

●生活困窮者の自立促進を包括的に支援するため、生活困窮者自立支援法に基づく業務を社会福祉協議会と協働して市民の多様化・複雑化する相談に対応し、相談受付を充実するとともに、個別の困窮実態に応じた支援を推進します。

10. 施策の評価

施策の進捗度	進捗度の判断理由
普通	●窓口相談のほとんどが生活保護申請になっていましたが、相談者のおかれている状況を把握し、生活困窮者自立相談支援事業の利用を案内し、自立に向けての支援が必要です。 ●生活保護制度については、適正実施に努めています。 ●生活困窮者の支援は、福祉部内だけでなく庁内各部署や関係機関も交えた協議が必須です。